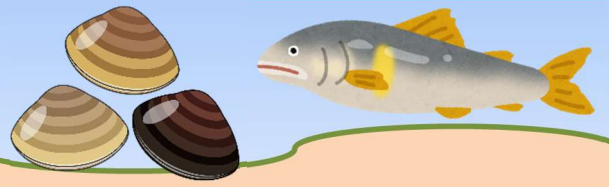


ゆうすい



熊本県水産研究センターニュース

【第 31 号】 令和 5 年(2023 年)3 月

新人特集!!

目 次

◆水産研究センターの新人紹介 (2 名)

◆自己紹介	1
◆各新人の研究・業務内容	2
☆二見川におけるスジアオノリ養殖試験	食品科学研究部 竹内 美彌子 2
☆試験調査船ひのくにの調査業務について	試験調査船ひのくに 原口 慧 3



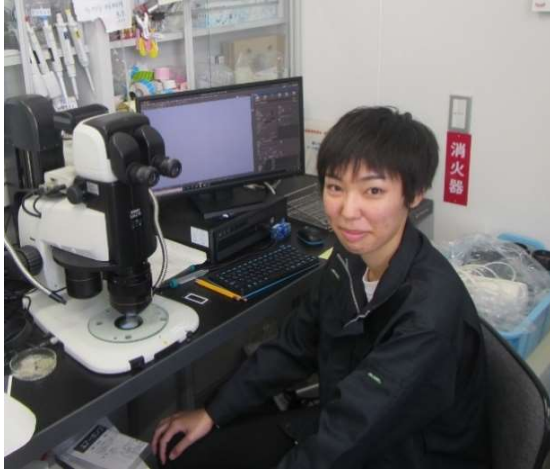
～ 新人紹介 ～

水産研究センターの展望台にて!!

新人二人、左から、竹内、原口

新人紹介

食品科学研究部 たけうち みやこ 竹内 美彌子



令和4年(2022年)4月に入庁し、水産研究センター食品科学研究部に配属となりました、竹内美彌子です。

主に食用海藻の増養殖についての研究と、アサリ・カキ等に蓄積される麻痺性貝毒の分析、水産加工品の試作等を担当しています。大学では環境について学んでおり、水産の現場については初めて経験することが多く、諸先輩方をはじめ、漁業者や漁協職員の方々にも多くのことを学ばせていただいています。

積極的にチャレンジして、知識や技術を身に付け、熊本県の水産業の発展に役立てるような研究を進めていきたいと思えます。

また、麻痺性貝毒の分析業務などは県内の食の安全にかかわるため、緊張感をもって日々業務にあたりたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

試験調査船ひのくに はらぐち けい 原口 慧



令和4年(2022年)4月に入庁し、水産研究センター試験調査船ひのくにに配属となりました、原口慧です。

航海士として航行時の操船や見張り及び調査観測時の調査業務に従事しています。

前職は貨物船の航海士をしており、船舶の安全運航業務についての経験はありますが、調査業務は未経験のため、日々初めてのことばかり

ですが、諸先輩方よりご指導いただき、業務に取り組んでいます。

熊本県には天草灘、有明海、八代海の3つの海域があり、各海域の調査点や特徴など学ばなくてはならないことが多くありますが、本県の水産業の発展に貢献できるよう業務に励みたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◆各新人の研究・業務内容

二見川におけるスジアオノリ養殖試験

食品科学研究部 竹内 美彌子

スジアオノリについて

スジアオノリは日本各地の河口域に分布する食用海藻です。熊本県では八代市の球磨川でノリ網を用いた養殖、二見川で天然の摘み取りが行われています。

ノリ網を用いたスジアオノリ養殖は11月に河口域にノリ網を設置し、川底に生えるスジアオノリから放出される胞子をノリ網に付けます。その後生長させ、50cm程度まで伸びた1月に摘採します。摘採されたスジアオノリは佃煮や乾物に加工されて、消費者に届けられます。

スジアオノリは比較的管理の手間をかけずに養殖することができるため、「稼げる海藻」として注目されています。

二見漁協におけるスジアオノリ生産

熊本県水産研究センターは、二見漁協でノリ網を用いたスジアオノリ養殖指導を行っており、令和3年度(2021年度)の調査で水中カメラにより藻食性魚類による食害が確認されました。

そこで、令和4年度(2022年度)は、養殖ノリ網の一部に食害防止網を設置したところ、設置3週間後には摘採可能な長さに生長しました。

このような養殖指導が実を結び、令和4年度(2022年度)は二見漁協で初めて養殖スジアオノリの摘採が行われ、令和4年(2022年)12月末までに6.0kg(乾燥)のスジアオノリを収穫することができました。1月以降も収穫が行われています。



図1 設置した食害防止網



図2 スジアオノリの摘採状況

◆各新人の研究・業務内容

試験調査船ひのくにの調査業務について

試験調査船ひのくに 原口 慧

はじめに

試験調査船「ひのくに」は令和2年（2020年）10月に竣工しました。最新の航法装置、調査装置を備え、熊本県沿岸域における海洋観測、資源生態調査、漁場環境調査などを行っています。



図1 令和2年（2020年）に竣工した「ひのくに」

調査内容

本船が主に行っている3種類の調査について紹介します。

沖合海洋観測等調査

天草海域にてCTD（図2）等を用いた海洋観測及びLNPネット（図3）の鉛直曳きによる卵稚仔の採取を行う調査です。



図2 降下中のCTD

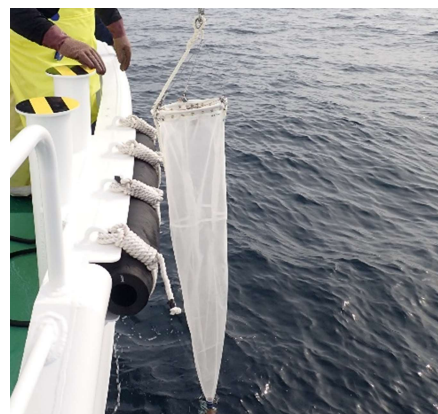


図3 降下中のLNP ネット

浅海定線調査及び内湾調査

毎月朔の大潮時、浅海定線調査（有明海）及び内湾調査（八代海）を実施し、バンドーン採水器（図4）、クロロテック（図5）等の各調査機器を用いた海洋観測・採水及びプランクトンネット（図6）の鉛直曳きによるプランクトン採取を行う調査です。



図4 バンドーン採水器



図5 クロロテック



図6 プランクトンネット

沿岸資源動向調査

有明海、八代海、天草灘にて、CTD（図2）等を用いた海洋観測及び本船船尾から表層と中層の2網の丸稚ネット（図7）を5分間水平曳きし、浮遊期仔稚魚類の採取（図8、図9）を行う調査です。

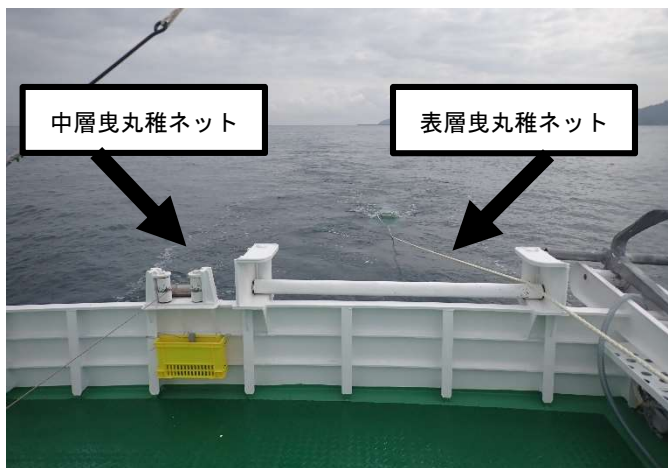


図7 丸稚ネット曳網中

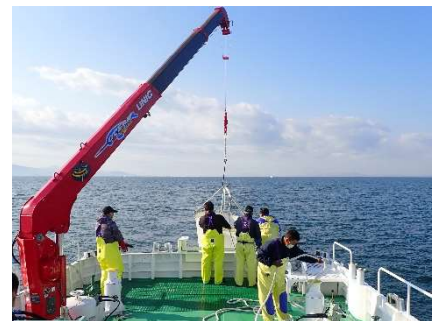


図8 網洗い中



図9 仔稚魚類サンプル採取中

また、上記以外にも、赤潮が発生した際に行う赤潮臨時調査、魚群探知機やマルチビームソナーを用いた海底地形調査など、年間を通して様々な調査を行っています。